

…制定刀法・公認審判 特集…

連盟会報

発行日：2016(平成28年)5月16日

…◆第45号◆…(P-1)

発行：NPO法人 日本抜刀道連盟

企画・構成・編集：広報部

…事務局…〒130-0026

東京都墨田区両国 2-21-5 両国ダイカンプラザ802号

☎:03-3631-5851 FAX:03-3631-5852

“修練と絆”…
“絆と連帯”



剣道場



集合写真提供
保泉連盟専属写真家
スナツブ：広報部

連盟本部主催『制定刀法・公認審判』 伝達講習会

2016年(平成28年)5月4日(水) 於:神奈川県立武道館



◆ 参加者 ◆

…本部役員(8名)…

大将会長・中島副会長・中世古相談役
大塚教務部長・菅野事務局長
藤田教務部員・境 教務部員
小林事務局員・保泉 写真家

…支部参加者(22名)…

武蔵会支部：平川政博	城谷光俊	猪膝武士
士成会支部：庄司一憲	酒井康充	
鎌倉支部：斎藤亨一	小林昭夫	
川崎支部：飯田敏晃	田村 悟	
英信館支部：山口 博		
仙台支部：井林幹明		
聖心塾支部：赤星新一	東京道場：柴田輝久	
笠間支部：浦井一彦		
福岡支部：橘 蘭		
埼玉支部：田島 敬	関原 勝	岩崎 進
	深川哲雄	水村光治
	柏保和夫	

審判は、人の上に立って判定を下す重要な役割だ。皆さんは、本日のこの講習会で得たものを、ぜひ大会競技に生かしてほしいとの挨拶があった。

新緑若葉に映える去る五月四日の
連盟の真つ只中。…
平成二十八年度の連盟事業計画に
基づく本部主催「制定刀法・公認審
判」伝達講習会が神奈川県立武道館
に於いて盛大に開催された。

連盟本部主催 『制定刀法・公認審判』伝達講習会

勢揃いした…大江連盟会長以下“講師陣”…

▼講習会は、順調に進み、午前は大塚教務部長以下教務部 藤田教士七段 また、高知県から駆けつけた 境 錬士六段が講師となつて熱心な研修を行った。なお、本講習会の進行司会は、事務局連絡を含めて大会会場変更で奔走する菅野事務局長が努めた。



開会挨拶
大江 連盟会長



…制定刀法講習… カリキュラム(研修内容)

- □
- ① 準備体操。
- ② [座学] 制定刀法解説による大塚教務部長の実技。
- ③ 質疑応答。
- ④ 制定形…段別 個人指導。



↑ 参加者全員による準備体操…指導:境 錬士六段

連休真っ只中…真剣に取り組む精鋭選手の雄姿↑
↓ 大塚教務部長による制定刀法解説と模範実技



上杉謙信“兜”

◆広報 便り

【誰もが気づかない発想】ただ単に活字を“見るのではなく”…50cmほど寝して会報の1枚を眺めてほしい…!。写真を挟んで活字を縦横に — 80 — 巧みに組み合わせ、絵画を眺める様な『絵心の発想』で一枚の作品として“構成・編集”がなされています。抜刀道を通じたご自分の人生記録をセロケ入らせて机の片隅に飾るもよし。名刺がわりに“COPY”して記念に配布するもよし。この様な“男のロマン”を勝手に抱き“連盟発展”の為、日々真夜中まで会報作りは続きます…。



「審判・審査・試合」に於ける、制定刀法所作の流れの中で
審判団は何処を見ているのか…大塚教務部長の『審判の目』の解説により、
模範演武を行う藤田錬士七段。

公認審判講習

□ □
午後からは、公認審判の座学と模範演武
による「審判要点」と目付：
実技：審判判定の発声と審判旗の上げ下
げ等々『審判実技と評価』と、中島副会長
と大塚教務部長との連携講師により中身の
濃い『ベシッ!』とした講習展開となり、
参加した精鋭選手の熱気に包まれた意義あ
る講習会は予定通り終了した…。

…公認審判講習… カリキュラム(研修内容)

- □
- ① [座学] 審判要領と要点…「模範実技の解説による『審判要点』の審判目付」。
- ② [実技] 審判『判定の宣言(発声を含む)と審判旗』の上げるタイミングの修得。
- ③ 審判旗の「上げ方・下げ方」の重要性と実技指導。
- ④ [実技] 模擬試合による審判実技(体験学習)訓練。



…審判判定時(発声を含む)の留意点と心得…

試合・競技は「真剣な緊張感」から大会意義が生まれる…。

特に審判判定での、主審の「判定宣言」と副審が紅白旗により判定表示をする場合は《元気よく…メリハリ》のある、判定旗の「上げ下げ」を行ってほしい…。

この審判団の凛々しく『的確な判断による動作・態度』から各会場(コート)での緊張感が生まれ、選手の「心意気と闘魂」を高揚させ、大会を盛り上げ成功させる原動力となる…。



▶ 判定時の審判旗は勝者側の旗を体側《前方45°》に一直線に上げる。
▼ 審判旗の持ち方一つで判定時の「凛々しさ」が変わる。

▼ 今回の審判講習では、初めての試みとして五段の選手にも特別に審判の「実技体験」をして戴いた…。

この狙いは、組織としては、後継者の育成と共に今まで審判を受ける側だったが、審判判定をする立場に立って静観すると、何をもって判定するのがよく解り、今回の講習に於ける、研修修練の成果を日常の稽古に生かす事ができるのである…。





去る四月九日(土)講習会。翌十日(日)審査会と、西日本地区春季支部合同による支部主催の講習・審査会が開催された。

待の気骨を持つ風土ある高知・島根から便りが届いた。

参加者は、高知・讃岐・島根支部の三十二名が出席した。段級審査会は、その内の受審者(十九名)中・合格者(十四名)が錦を飾った。



◆支部便り◆



[審査委員] 讃岐支部長 平岡 茂範(教士7段)・藤本 佳嗣(錬士7段)・高知支部長 境 泰雅(錬士6段)

◆合格者◆

一級 中村龍貴(讃岐)	初段 谷口和徹(讃岐)	二段 鈴木久慶(高知)	二段 小松英正(高知)
初段 藤田良治(讃岐)	初段 植木茂治(讃岐)	三段 伊藤幸洋(讃岐)	三段 長野 喬(讃岐)
初段 ルギ・アソリ(高知)	二段 安藤一昭(讃岐)	三段 萩野昭雄(讃岐)	四段 吉原安夫(島根)
二段 稲田雄輔(讃岐)	二段 北川 毅(高知)		

◆広報◆
[隙] 《編集◆後記》



最近、国内/海外に於いても、全く武道修練の経験なく“刀で物を斬る”《かっこよさ》からの入門者が増えている…。

巻ワラを、5~6本近く立て、バットを振るようにして斬り…、斬れた本数が多いと手を叩いて喜びあう… この様な斬るだけの姿を見ていると涙が出る…。

また、抜刀道は、畳み莫産(巻ワラ)を斬る武道と決めつけ…日本刀を単なる斬る“道具”としての“感覚”で扱う…。畳み莫産を切るのは“畳み屋さんの仕事”であり、日本刀は『鉄と炎と水』との鍛錬により、刀匠が“心身と誠(入魂)”を込めて製作する“世界に類”のない、貴重な日本の文化遺産であり“威厳”がある…。

◆お人柄紹介◆



田嶋 敬(77歳)
埼玉県支部長

◆所属支部◆ 埼玉支部
◆武道歴◆
※ …抜刀道 教士七段…
NPO法人 日本抜刀道連盟
※ …剣道 二段…
※ …居合道 三段…
◆趣味◆ ※ 盆栽・園芸。
◆座右の銘◆
※ 意志あるところに道は開ける…。

■ 本連盟の“抜刀道の理念”は、同格の武士同士が対峙しての、真剣勝負を想定しての『剣の理念に基づく所作』から生まれた“制定形の試斬”であり、日本刀を手にした時の“心の動き《隙》”について触れてみたい…。

▼ 隙には“三つの隙”がある…。① 心の隙 ② 構えの隙 ③ 動作の隙で、最も恐ろしいのが ① 《心の隙》である…。心の隙がなければ、構えや動作の隙はなくなるということである。昔の剣客はこの心の隙を断つために、山に登り・寺にこもり・或いは、滝に打たれ、食を断ってまで、難行苦行したの話を数限りなくある…。② 《構えの隙》自分では十分な構えのつもりでも“修練の不足”で、どうしても現れる。しかし、修練を積み重ねることにより“克服”することが出来る。

③ 《動作の隙》 相手と対峙し攻防に夢中になっている時に生ずる隙である。しかし、これらの三つの隙の内、構えや動作の隙は、積み“重ねる修練”により、ある程度なおせるが… 《心の隙》は一朝一夕にして除けるものでない。だが《心の隙》が除けたら“構え・動作”の隙も自然となくなり、不敗の態勢になると言われている…。

本部 広報部長
中島 正夫



さて、私達が“飯標と対峙”し抜刀する瞬間に、この3つの隙を意識したときに本物の“気位”が生まれ稽古も楽しくなる…。

▼ 今回の本部主催の講習会に六名の選手を送り込み修練に取り組むその姿を、真剣な眼差しで陰から見守る支部長がいた…。

お人柄円満で物静かな田嶋支部長は、現在両眼共に手術不能な緑内障の疾患をもつ身でありながら強い意志をもって稽古指導に励むその姿には頭が下がる。長い人生の中で、心に残る思い出を聞くと…、少年期に『竹刀競技』から剣道に入り、中学時代は主将で活躍。高校剣道部でも主将を歴任すると共に、皇宮警察での剣道大会でも輝かしい戦歴を残している…。

▼ 『竹刀競技』と言う、聞き馴れない言葉が出てきたので…ふと振り返ると…、この度は《核の無い世界の実現を叫ぶ!》オバマ大統領の歴史に残る広島訪問が実現されるが…、

日本は、七十一年前の昭和二十年。終戦と同時に米国により、全ての『武道活動と刀剣の製作』が禁止された。しかし、武道家の必死の嘆願努力で、昭和二十七年に学校体育にスポーツとしての竹刀競技が認定され、これが母体となって『現代剣道』の道が開かれた足跡がある…。

▼ この様な時代に「竹刀競技から現代剣道」を修練し、青春時代に活躍した、田嶋支部長の尊く貴重な『武道人生から生まれた情熱』が、緑内障と言う不自由な視力を克服しつつ現在《心眼》をもって抜刀道の修練指導を行っており、《座右の銘は》…と聞くと『意志あるところに道は開ける』と言う…。物静かなお人柄の内面に、正に『人生開拓』との強い情熱と…剣の道で培った年齢を超越した『心の青春』を感じとった…。

[本部 広報部]